

人口減少社会の課題と展望

— AIがもたらす未来社会 —

旧大阪商科大学の伝統を受け継ぐ大阪市立大学経済学部は、昭和24(1949)年に創立され、令和元年に創立70周年を迎えました。平成9(1997)年に設立された経友会は、これまで、経済学部創立50周年、60周年という節目の年に、その時代の世界の潮流や日本社会の課題などを考察するシンポジウムを開催してきました。創立70周年を迎えた昨年、経済学部と共催で記念シンポジウムの開催を計画していましたが、予期せぬ台風のため中止のやむなきに至りました。

このため、今春、改めて経済学部と共催で学部創立70周年を祝う記念講演会を開催することとしました。

今日の日本社会においては、世界に例を見ない急速な人口高齢化・少子化が進行し、生産人口の減少のため、農林水産業、商工業などの主要産業や、流通、建設、医療・介護など、社会インフラを形成する分野で、現場の人材不足が生じています。そのため、今後、日本社会は外国人労働者を増やしていかないと成り立たないとの意見があります。

一方、人工知能(AI)の進展は、ロボット技術の進展とも相まって、単に労働力不足を補うだけでなく、高度の判断能力によるビッグデータの解析と活用によって、新たな産業革命を起こし、社会システムを一変するとの意見もあります。

こうした状況を踏まえて、『ハゲタカ』シリーズの著者として知られる小説家の真山 仁氏を基調講演者にお招きし、「人口減少社会の課題と展望—AIがもたらす未来社会—」をテーマに、本学の経済学部、商学部の先生方3人が語る鼎談を開催します。

日本の産業経済をはじめ、社会文化の発展の方向性や可能性を考察して、将来のあるべき姿を模索し、社会に発信したいと思っています。皆様の多数のご参加をお待ちしております。

日 時 2020年4月25日(土)午後1時30分～4時20分(午後1時開場)

**参加費
無料**

会 場 大阪市立大学学術情報総合センター10階 大会議室

記念講演

小説家 真山 仁氏
演 題 “AI社会”とどう向き合うか

鼎 談

テーマ 人口減少社会の課題と展望 —AIがもたらす未来社会—
鼎談者 福原 宏幸氏 大阪市立大学大学院経済学研究科教授
松永 桂子氏 大阪市立大学大学院経営学研究科准教授
齋藤 幸平氏 大阪市立大学大学院経済学研究科准教授



学術情報総合センター

主催 大阪市立大学経友会・大阪市立大学経済学部

【お問い合わせ先】

経友会事務局担当 出原(いずはら)康雄

TEL 090-1911-0190

E-mail keiyukai07@sakai.zaq.ne.jp

(2020年1月作成)

プロフィール



真山 仁 (まやま じん)
大阪府出身

小説家
同志社大学卒業

1962年大阪府生まれ。新聞記者、フリーライターを経て2004年『ハゲタカ』でデビュー。「ハゲタカ」シリーズのほか、日本の食と農業に斬り込んだ『黙示』、被災地の小学校を舞台にした連作短編集『そして、星の輝く夜がくる』『海は見えるか』、カジノと地方再生をテーマにした『バラ色の未来』、東京地検特捜部の富永検事シリーズ『売国』『標的』、日本最強の当選請負人が主人公、選挙の裏側にスポットを当てた『当確師』、日本の財政破綻問題に斬り込んだ『オペレーションZ』、東京五輪を舞台にした謀略小説『トリガー』など著書多数。



福原 宏幸 (ふくはら ひろゆき)
兵庫県出身

大阪市立大学大学院経済学研究科・経済学部教授
同大学院経済学研究科 博士
社会政策学会、社会福祉学会などに所属

2000年頃欧州から導入された概念「社会的排除 / 包摂」に着目し、日本において社会的排除に直面する人々とまちの実態（貧困・社会的孤立・不安定就労・不健康・社会的リスクなど）の調査研究をし、あわせてこれらの解決策を研究している。また、欧州の同様の問題に関する共同研究を行っている。



松永 桂子 (まつなが けいこ)
京都府出身

大阪市立大学大学院経営学研究科・商学部准教授
同大学院経済学研究科 博士
日本地域経済学会理事、
日本地域開発センター『地域開発』編集 委員など

地域経済を専門としています。大学院の後、島根県の大学に就職したのがきっかけで「地方」の人口減少問題に関心を持つようになりました。その後、一転して「都市」をコンセプトにする本学創造都市研究科にて社会人大学院を担当しました。現在は商学部にて在籍していますが、これまでの経験から「都市」と「地方」、両方の事情に精通する研究者でありたいと思っています。著書に『創造的地域社会』『ローカル志向の時代』など。毎日新聞に「時事ウオッチ」を連載中です。



齋藤 幸平 (さいとう こうへい)
東京都出身

大阪市立大学大学院経済学研究科・経済学部准教授
1987年生まれ 経済思想家
ベルリン・フンボルト大学哲学科 博士課程修了
経済理論学会に所属

マルクスは古い、時代遅れだと繰り返しながらも、現代社会の困難を乗り越えるためにはやはりマルクスしかない信じて、日々研究と実践に励んでいます。専門としての興味は環境問題ですが、AIやオートメーション化も「ブルシットジョブ」と労働からの解放を考えるうえで重要なテーマだと思って興味を持っています。著書に『大洪水の前に マルクスと惑星の物質代謝』(堀之内出版 2019年) 編著に『未来への大分岐』(集英社新書 2019年) 2018年 ドイツチャー記念賞受賞